

新年のごあいさつ



（社）鹿児島県シルバー人材センター連合会
会長 大迫 愿

新年あけましておめでとうござい
ます。

会員の皆様並びに関係者の皆様方
には、お健やかな新春をお迎えのこ
ととお慶び申し上げます。

また、旧年中は多くの関係者の皆
様に暖かいご支援ご協力をいただき
ましたことに深く感謝申しあげま
す。

振り返ってみますと、昨年は何か
と異常な出来事の多い一年であつた
と思ひます。

長引く不況、そして雇用状況の悪
化等厳しい状況に加え、異常気象に
よります猛暑に見舞われ、野菜不足
などの現象が物価の高騰を招き、さ
らに、口蹄疫の発生により、多くの

イベント等が中止や延期に追い込ま
れ、畜産農家ばかりでなく地域全体
に大きな影響を及ぼしたところでご
ざいます。

また、政治の面におきましては鳩
山首相の辞任に伴い、菅内閣の誕生
をみましたが、参議院選挙における
与党の敗北により衆参ねじれ国会の
現象により混迷を深めたところでご
ざいます。

私どもシルバー事業も国や地方の
行財政改革に伴い、長期にわたる不
況の中で益々厳しさを増してまいり
ました。全体的に見ましても就業率
の低下と契約金額の減少は否めない
事実で、この傾向は全国的なものとな
っております。

ご承知のとおり一昨年実施されま
した第一弾の事業仕分けにおきまし
て運営費補助金を三分の一削減する
というシルバー事業にとりまして極
めて厳しい評決を受けましたが、皆
様方の要望活動や陳情活動はもとよ
り、関係者のご尽力によりまして、
平成二十二年度は約十六・二%の運
営費の削減にとどめていただいたと
ころでございます。

本年度は、第三弾の事業仕分けに
おきまして、「第一弾の評価結果が
反映されていない」として、「平成
二十二年度予算要求の三分の一程度
を縮減」という極めて厳しい評
価結果が出されたところでございま
す。

本県は、全国に先駆け超高齢社会
に突入しており、「福祉の受け手か
ら社会の担い手へ」というシルバー
事業の活動理念は、「高齢者福祉対
策」という観点からもその役割は
益々重要になっております。

また、平成二十年から導入され
ました企画提案事業により、県下で
二十七の事業が実施され、高齢者や
子供達が世代を超えて一緒に参加で
きる「ふれあい教室」を開催し、昔
遊びや門松作り、しめ縄作り等健全
な子供の育成に貢献するとともに、

社会的弱者の家庭に心のかよった「
あったか食事」を提供するほか、託
児ルームを開設し、乳幼児・児童の
一時預かりや若いお母さん達の育児
相談に当たる等、シルバー人材セン
ターの事業は、正に赤ちゃんから高
齢者まで係わり、その可能性を大き
く広げております。

現在、本県では三十四のセンター
が設立され一二、〇〇〇名の会員が
いきいきと活動し、二十一年度の契
約金額は四十五億七千九百万円に
上っております。

そして、働く意欲のある高齢者で
あれば誰もがこの事業に参加するこ
とができますよう、今後とも関係者
の皆様のご協力をいただきながら、
連合会と拠点センターが連携協力し
て魅力あるセンター作りに取り組む
所存でございます。

最後にシルバー人材センター事業
のさらなる発展と事業に携わる皆様
方のご健勝とご活躍を祈念いたしま
して新年のごあいさつといたしま
す。

年頭に当たって



鹿児島県知事

伊藤 祐一郎

明けましておめでとうございませう。すがすがしい新春を迎え、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

今日、我が国経済は、企業収益は改善し、設備投資も持ち直してはいるものの、このところ輸出は弱含みで、生産は減少するなど景気は足踏み状態となっており、また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にあります。

県内経済についても、生産は持ち直してきているものの、雇用の回復は足踏みしており、個人消費も弱い動きとなっているなど、厳しい状況が続いております。

また、我が国は、総人口が減少する中で世界に例のない速さで高齢化

が進んでおり、いわゆる「団塊の世代」が高齢世代に加わる二〇一五年には国民の約四人に一人が六十五歳以上の高齢者になると考えられています。特に、本県は、全国平均に比べ約十年先行する形で高齢化が進んでおり、高齢社会対策は、県政を進める上で重要な課題の一つとなっています。

このような中、高齢者の方々が長年の経験から培ってきた知識や技能を生かして、様々な社会活動へ参加し、地域の支え手として活躍されることは、活力ある地域社会を構築する上で、大変重要なことであり、働く意欲のある高齢者に就業の場を提供することにより、高齢者の社会参

画を促し、高齢者自らの生きがいの充実や活力ある地域社会づくりに寄与されているシルバー人材センターの果たす役割はますます高まってくるものと考えております。

さて、いよいよ三月十二日には県民悲願の九州新幹線鹿児島ルートが全線開業します。これにより、鹿児島から青森まで日本列島が大きな動脈で結ばれ、大阪まで乗り換えなしで最速三時間四十五分となります。全線開業は、商圏の拡大や交流人口の増加など、鹿児島にとって新しい時代の幕開けになるものだと思います。

この千載一遇のチャンスを生かすべく、本県では、「増やす」、「広げる」、「活かす」の三つの視点で、本県が持つ本物の魅力の情報発信や二次交通アクセスの改善などに努め、その効果を県下全域に拡大・波及させたいと考えています。

また、開業時には、「新たな交流のはじまり『往来、オーライ！』」をテーマにした開業イベントを開催するとともに、三月十八日から六十六日間にわたって「全国都市緑化かごしまフェア（花かごしま二〇一一）」を県下各地で開催し、全線開業を大いに盛り上げることに

しています。

私としましては、時代や環境が大きく変化する中にあっても、本県の可能性を強く信じ、希望を持って、様々な問題に取り組み、「力みなぎる・かごしま」、「日本一のくらし先進県」づくりに果敢に挑戦してまいりますので、引き続き、県政の推進に御理解と一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、鹿児島県シルバー人材センター連合会並びに各シルバー人材センターのますますの御発展と会員の皆様方の御健勝・御活躍を祈念いたしますとともに、皆様にとりまして幸多い年でありませう心から祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ



鹿児島労働局長

今野文平

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、平成二十三年の新年を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、日頃からシルバー人材センター事業の充実・発展に格別のご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、最近の我が国の景気動向は、穏やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感がみられるところですが、また、持ち直しの動きがみられるものの、雇用情勢は依然として厳しい状態が続いています。

鹿児島労働局管内においても、昨年一月以降、有効求人倍率が〇・四倍台前半で推移しており、一時期の

最悪の状態は脱したものの、依然として厳しい局面が続いております。

一方、我が国は、少子・高齢化が世界に類をみない速度で急速に進行しており、いわゆる団塊の世代が二〇一二年には六十五歳に到達し始めることによる労働力不足や技術の継承が懸念される中、我が国経済社会の活力を維持し持続的な発展を可能とするためには、長年培われた知識・経験と高い就業意欲をお持ちになられる高齢者の方々に、その能力を遺憾なく発揮していただくことがますます重要となつてきております。

このような中、シルバー人材センターは、制度発足以来、高齢者の

方々が「自主・自立、共同・共助」の理念の下に、それぞれの地域の実情に応じて、自治体などと連携して企画立案する地域密着型の「企画提案事業」の実施や、独自事業の開発、一般労働者派遣事業など積極的な事業活動を展開してこられました。これからも、会員の皆様が持つておられる豊富な知識・経験が発揮され、就業を通じた社会参加、働き甲斐・生き甲斐を感じられる社会の実現に向けて、さらに積極的な取組がなされますよう期待しているところで

す。

他方、最近のシルバー人材センター事業を取り巻く状況をみますと、公益法人制度の抜本改革等が進められる中で、これまで以上に自主・自立に向けた事業運営の強化と、これを支える自主的財政基盤の確立を図っていくことが特に求められています。また、シルバー事業での就業は「安全は全てに優先する」ものであり、会員の皆様の意欲に満ちた就業を実現するためにも、全ての組織を通じて、安全かつ適正な就業を最優先課題にして業務に取組んでいただきますようよろしくお願い申し上げます。

鹿児島労働局といたしましても、

今後とも、シルバー人材センターが地域社会に深く根をおろしながら更なる発展を遂げるために、引き続き、関係の皆様と連携を図りながら支援を行ってまいりたいと考えております。

最後に、シルバー人材センター事業の益々のご発展と、今後の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申しあげまして、新年のごあいさつといたします。